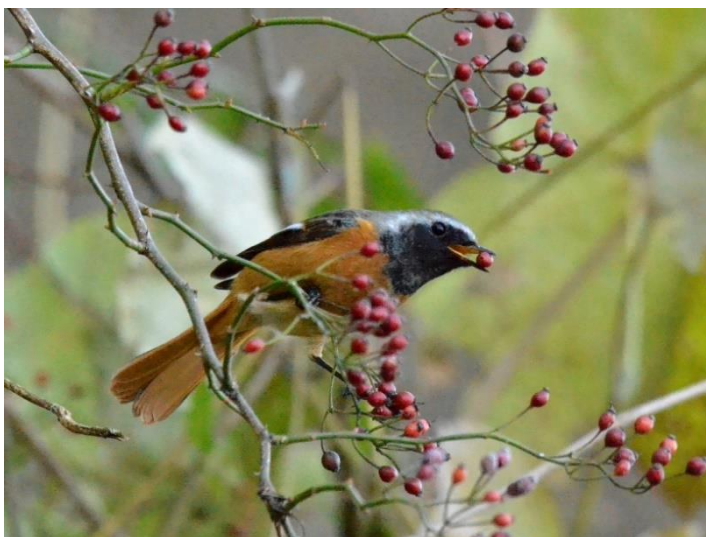


トリ x ショク

鳥 x 植/食

カワラヒワ、アトリやシメのコラボ写真。秋から春までは、野鳥にとっては寒さ、食料や隠れ場の確保など、困難なことが多い時季であることは想定できます。その間、多くの野鳥は最も頼るのは植物でしょう。しかし、冬が深まるにつれ、餌となり得る実や種子などがだんだん減少する中で、野鳥は必死に越冬し、春の長旅や繁殖に備えます。こんな物も、あんな物もと、想像を超える程、植物の細かい部位までかれらを支えます。今回の新聞はあきる野の「トリショク」にアプローチします。



U
&
≡
(実)



12月 クリスマスが近い頃、季節らしく野原では色々な赤い実が見られます。野鳥には、「やぶ」に生えるガマズミやナンテンなどのきれいな実は重要な食料元で、その色に呼び寄せられるかのように、沢山の鳥があつまるタイミングがあったりします。写真は、ノイバラの実をついばむ美しいジョウビタキのオスです。なんだか大変喜ばしいそうに見えます。

嘴 大活躍！ このイカルは、嘴や頭でっかちで少しがっしりしている野鳥です。写真はムクノキの実を食べている様子です。小鳥の割に、大きくて硬い実などをつぶすついでにむことができる強力な嘴を持っています。冬が深まると山地よりも、河原などの樹林地でよく見かけます。

冬～春 の トリ放題



真冬 非常に寒い朝、日陰の森のやぶで静かに探るミヤマホオジロが2羽いました(右)。耳を澄ませなければ多分見逃していたのだろう。かれらはサクッと、パサッとした感覚に見えるイネ科の種子をついばんでいました。樹上には、サクラの冬芽を好むことで有名なウソ(左)が一つずつ冬芽を食べていました。



1月 赤いベニマシコが「枯草の中の宝物探し?」と思わせる程、小さな嘴で必死にカラムシなどの細かい種子を採食してました。マヒワ(丸い写真)も同様にフサザクラの種を「消費します」。こうやって、北国から飛来したこれらの野鳥は寒い冬を乗り越えて行きますが、1日どれくらいこのような種子を採食するのか気になりますね。


2月 春の訪れが実感できる頃、梅などの花が目覚め、それを求めにやって来るメジロの姿はとても見栄えがあります。公園や庭でそのしぐさを見ながら癒される人が多いでしょう。



3月 桜が咲く頃、春の渡りがピークを迎えます。この頃のある野に立ち寄る野鳥は「冬の残り物」や「春の新たな恵み」をせわしく探ります。この写真は、希少なヒレンジャクやキレンジャクが青く光るジャノヒゲの残った実を採食中でした。間もなく、北国に渡るため相当の「燃料」が必要でしょう。

野鳥は、冬を越すのが大変に見えます。その中でも植生環境が豊かな場所では、数多くの野鳥が越冬し、新しい年に子孫を残すためなど、生き延びています。いかに様々な植生環境を大切にする必要があるのか分かります。人間は都合よく環境を変えますが、その環境の奥深さは計り知れないこともあります。

それでは
いよいよ
春本番です!



鳥っこサンライズ